

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

外部評価の結果

講評
全体を通して(特に良いと思われる点など) 『利用者』が混乱したら、その原因は何かを考え、相手の立場になって受け止めてあげる。そして、しばらく見守り、様子を見て、やさしく声掛けをしながら、ゆっくり穏やかに話してあげる。他の事に気を取られずに真剣に傾聴してあげる。この姿勢が、このグループホームのすべてと感じた。 一人の利用者に対して、職員全員がその人の生活や様子を見つめる。その結果を持ち寄って、その利用者のケアや人間としての尊厳について話し合う。その中から職員自身が人間としても向上していく、グループホーム全体としてサービスの向上を求めていく。このような研修を重ねていくことこそが、前記の姿勢が本物となるであろうと、日々の実践に敬意を表する。 利用者は、家事の手伝いをしたり、ゲームや暮目並べをしたり、ピアノを弾いて歌を歌ったり、本や新聞を読んだりして、グループで思い思いに過している。友達同志でお話もしている。ユニット同志の人々が、行き交う姿もあり、みんな穏やかに過しているようだけれど、人の動きや笑顔等活気も感じる。職員も担当はあるが、グループホームの中を利用者と交流し、見守りや声掛けなどをしながらケアをしている。主役は利用者、職員が脇役となり、一人ひとりを見れば、認知症の重症度や身体的な障害の差はあるけれど全体としては、楽しそうで、目が輝いた人々の生活の舞台を見ているようだった。
特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした ケアプランに必要な資料や日常の記録は整備され、保管されているが、記録類の様式やファイリング方法に一工夫して頂き、誰もが見ても、分かり易いシステムを使って貰いたい。 病院とデイケア、そしてグループホームがあり、地域の内外から多くの人が集まるので、この拠点から『認知症への理解や認知症ケアについての情報を発信して頂き、これからの高齢者の暮らしを豊かにするシステム作りのリーダーシップ』を発揮して頂きたい。 素晴らしい研修をしておられますが、他のグループホームとの交流や外部の研修等も利用され見聞を広げて頂きたい。

事業所名	グループホーム ほほえみの家
日付	平成17年8月3日
	特定非営利活動法人
評価機関名	高齢者と痴呆の人のケアを大切にす会 LIFE SUPPORT推進グループ
評価調査員	在宅介護経験15年
評価調査員	在宅介護経験11年
評価調査員	老人保健施設介護実務経験5年、介護支援 専門員経験5年
自主評価結果を見る	
評価項目の内容を見る	
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か 「信頼は声の掛け合い、助け合い、笑顔で挨拶」と事務所に掲示してある。理念も「認知症を穏やかに保ち心身共に安定し幸福な生活が送れるよう支援する。」である。このような生活を送って貰うために、このグループホームの認知症ケアで大切にしていることは「利用者」と職員との信頼関係を築く。ことと察した。利用者の表情や行動、職員が利用者を尊重しながらの行動を見ていると、みんな掲げている目標、計画、実行、評価がうまく出来ている実感を得た。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か 利用者が2つのユニットを合わせて、良く活用しているなあと感じた。このグループホームを見ていると、利用者同志がグループで楽しんで動いている(決して認知症のせいでは歩き回っているという意味ではない)ことに日頃の生活の楽しさを感じた。、 庭先も広くて素晴らしい空間があり、こも夕方や涼しい時は大いに活用して貰いたい。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か 利用者がテーブルに座って、じっとして居眠りしている光景は、全く見かけることがなかった。認知症の症状の大分進んだ人、車椅子の人も居るんだけど、どこでも周りの空気が動いている感じがする。これは、一人ひとりの気持ちや意志を尊重して、余計なことは押し付けないけれど、それぞれの人の人格を尊重して、陰ながらしっかりと支えてあげているのだなあと感じた。認知症の人の心と介護者の心がうまく交流できている証だと納得した。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か 認知症ケアの質の向上に対する取り組みは積極的にされていることは素晴らしい。そして医療法人とは別の法人にして独立性を高め、高齢者に対する生活の場を提供していることは、新しい時代に即した運営を目指していると思う。しかし、これから地域の中で、住民に密着した小規模多機能な生活の場を提供して行こうとする時代には、医療や福祉、町内会、民生等の組織が一体となって協力していく事も必要だと思う。その中心的な活躍を願うものです。		